

◆利用案内

- 開館時間／午前9時から午後5時まで
(入館時間は午後4時30分まで)
- 休館日／毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)
年末・年始(12月29日から1月3日まで)



八代の名前のついた「八代草」
花の見頃は7月初旬、屋外展示
コーナーで見ることができます。

- 常設展示／一般 310円(240円)
観覧料 大学生 200円(160円)

※高校生以下は無料()内は20名以上の団体
特別展示の場合は、その都度別に定めます。

◆交通案内

- JR…………鹿兒島本線・肥薩おれんじ鉄道[八代駅]下車3km
九州新幹線[新八代駅]下車6km
- バス…………【八代駅・新八代駅西口から】
○検察庁・法務局・博物館前下車(徒歩すぐ)
○北荒神町福祉センター前下車(徒歩5分)
○八代市役所前下車(徒歩10分)
- 車…………八代I.Cから八代港線経由で7km
大型バス4台、普通車約40台駐車可



八代市立博物館未来の森ミュージアム

〒866-0863 熊本県八代市西松江城町12-35
TEL0965-34-5555・FAX0965-33-9200

URL <http://www.city.yatsushiro.kumamoto.jp/museum/>

八代市立博物館未来の森ミュージアム

Yatsushiro Municipal Museum



南国の強い陽ざしが地表に
大きな幾つもの影を刻んでいた。
風が吹き抜けていく木陰をつくること、
設計しながら絶えずそんな
イメージが脳裡をかすめていた。

伊東豊雄





妙見宮祭礼神幸行列 人形模型

弘化3年(1846)に描かれた「妙見宮祭礼絵巻」(松井文庫所蔵、青井郷秀筆)に基づき、600体余りの人形で再現したものです。

妙見宮(現八代神社)祭礼は八代地方の秋を彩る伝統ある祭礼として知られ、平成23年3月国の重要無形民俗文化財に指定されました。



未来への扉

八代は、九州のほぼ中央部、八代海を臨む球磨川の河口に位置します。古くから交通の要衝として人々が盛んに行き来し、この地域の政治・経済の中心として発展してきました。

博物館では、この地で育まれた八代独自の歴史や文化、人々の生活を考古・歴史・民俗・美術工芸など、さまざまな角度から紹介する展示を行っています。

過去からのメッセージを生き生きと伝え、未来を切り拓く創造の場となる、そんな博物館を目指しています。

2F



1F



八代城(松江城)城郭模型(縮尺1/200)

八代市のほぼ中心部に位置する八代城は、熊本藩主加藤忠広が八代代(かとうただひろ)の加藤正方に命じて松江村に築かせた城で、元和8年(1622)に完成しました。寛永9年(1632)加藤家の改易により、細川忠利が藩主となり、その父三斎(忠興)が八代城に入城します。三斎没後の正保3年(1646)には、筆頭家老の松井興長が八代城守衛となり、以後明治3年(1870)の廃城まで、松井家歴代が在城しました。400年近く八代の歴史を見つめてきた城です。

※この模型は、寛政9年(1797)以後の史料に基づいていますが、寛文12年(1672)焼失後、再建されなかった天守については正保年間の史料に基づき復元しています。

別名/白鷺城

- 独自の視点と調査にもとづく秋季特別展覧会「八代の歴史と文化」シリーズの開催
- (財)松井文庫所蔵品の調査・研究、展示、古文書調査報告書の刊行等
- 考古・歴史・民俗・美術工芸(八代焼、肥後鐺、染草、和紙など)の調査・研究、収集・展示

[常設展示]

八代の歴史と文化をさまざまな角度から紹介しています。各コーナーとも、年間2~4回の展示替を行っています。

◆西山宗因の世界

~八代が育てた大スター~

西山宗因は、江戸時代前期に連歌や俳諧の世界で活躍した人物です。青年期を八代で過ごした宗因は、その後大坂で活動し、井原西鶴や松尾芭蕉にも大きな影響を与え、談林俳諧の祖と称されました。軽妙かつ優雅な句と華やかな紙を使った宗因の作品の世界は、今なお私たちを楽しませてくれます。

(左)「談林六世像賛」より西山宗因肖像 文化10年(1813)

(右)「ながむとて」句短冊 西山宗因自筆 江戸時代前期(17世紀)



◆古文書を読む

~古文書に刻まれた八代の歴史~

個人や組織の営みを記録した古文書は、わたしたちの歴史を知る上で欠くことのできない存在です。このコーナーでは、古文書をさまざまな視点からわかりやすく紹介します。

宮本武蔵書状(松井興長宛) 寛永17年(1640)7月18日 熊本県指定重要文化財



水玉紙

◆和紙

~くらしを彩る和のこころ~

今から400年ほど前、八代の宮地地区に紙漉きの技術が伝えられ、檀紙や奉書紙、水玉紙を始めとする装飾紙、生活に欠かせない障子紙などさまざまな紙が作り続けられてきました。

このコーナーでは、宮地和紙の歴史を語る資料の紹介とあわせて、江戸時代から現代までの美しい和紙も紹介しています。



貝覆 江戸時代後期(19世紀)



老松に瀧図屏風 江戸時代前~中期(17~18世紀)



霞に花車文様唐織 江戸時代後期(19世紀)

松井文庫展示室(第二常設展示室)

江戸時代、200年以上にわたって八代城に在城し、細川家の筆頭家老をつとめた松井家(3万石)には、古文書や美術工芸品など貴重な文化財が数多く伝えられ、現在は、(財)松井文庫によって管理されています。

本館では、八代の歴史と文化に大きな影響を与えた松井文庫の美術工芸品を、さまざまなテーマにより紹介しています。



松竹文様蒔絵十種香道具 江戸時代後期(19世紀)

- 展示替/年間5~7回
 - 内 容/武器・武具(甲冑、弓具や馬具) 絵画・書跡(屏風、絵巻、掛幅) 調度品(香道具、飲食器、文房具、婚礼調度) 能面・能装束、小袖・装身具 ほか
- ※展示内容や会期は毎年変わりますので、その都度お問合せください。



能面 小面 江戸時代初期(17世紀)



伊予礼縫延平包胴具足 江戸時代中期(18世紀)



田川内古墳石室内部
古墳時代中期(5世紀)

人物埴輪頭部
八代大塚古墳出土
八代市指定文化財
古墳時代後期(6世紀)



◆八代の遺跡と出土品

～掘り出されたタイムカプセル～

八代市内には数多くの古墳や遺跡があります。このコーナーでは発掘調査によって発見された土器や埴輪・装飾品など、主に弥生時代から奈良時代にかけての出土品を展示しています。さらに熊本・八代特有の装飾古墳も写真パネルや模型で紹介しています。



米作りの農具

◆民俗

～さまざまなくらしのかたち～

九州山地や八代海、球磨川、八代平野…異なった環境の中で営まれてきた人々のくらしを紹介します。先人の苦勞と工夫により作られたさまざまな道具は、懐かしいだけでなく、わたしたちの今のくらしに活かすことのできる情報を発信しています。



妙見祭のスター・亀蛇
毎年祭りの時期に展示中
頭:明治40年(1907)
胴体:昭和15年(1940)
腰巻き(波模様の幕):昭和46年(1971)



八代地方独特の特大羽子板
一間羽子板
昭和時代(20世紀)



象嵌菊唐草文徳利
上野東四郎 作 文化12年(1815)

◆八代焼

～伝統の白土象嵌～
高田焼(こうだやき)ともよばれます。今から370年あまり前、千利休に学んだ大名茶人細川三斎とともに八代に入った豊前国(福岡県)上野焼の陶工によって開かれました。現在も全国的に知られる工芸品です。緑がかった地に白く文様の浮かびあがる象嵌が特徴です。



三階松透鐙 無銘
林又七 作 江戸時代前期(17世紀)
熊本県指定重要文化財

◆金工

～武士の美意識・匠の技～

江戸時代、肥後で作られた刀の鐙などの金工品を展示しています。鉄砲鍛冶として加藤家に仕え、現在も熊本を代表する伝統工芸品肥後象眼の祖と称される林又七や、細川三斎に従って八代に入った平田彦三・西垣勘四郎・志水仁兵衛ら名工の作品を紹介します。



二引唐草象嵌鐙 無銘
西垣勘四郎(二代) 作
江戸時代前～中期(17～18世紀)



鳥類生写図のうち 熊鷹
甲斐良郷筆 文化15年(1818)

◆肥後の近世絵画

～雪舟の技を伝えた矢野派を中心に～
江戸時代の肥後細川藩では、雪舟の流れをくむ矢野派の絵画が武家屋敷や民家の室内を飾りました。また、狩野派や文人画家たちも多くの作品を遺しました。それらの中から、山水画や肖像画、動植物を描いた美しい作品の数々を紹介します。

◆信仰のかたち

～八代の人々が
守り伝えたもの～
神社や寺院に伝えられた数々の彫刻や絵画は、八代に生きた人々の信仰を物語っています。信仰と美の織りなす世界をお楽しみください。



1F展示室